KSK 想創奏

2026
No.66
7月号

社会福祉法人そうそうの杜

特集 家族の思いに寄り添う。

SHIGINO FES.2026
開催レポートと振り返り

ミャンマースタッフの思い
支援の現場で感じたこと

KSK(想創奏) 一九八四年八月二十日第三種郵便承認 毎月(五・十・十五・二十・二十五)日発行 通巻3894号 2026年8月25日発行

編集人
社会福祉法人そうそうの杜
〒536-0013 大阪市城東区鴫野東3-2-26
tel 06-6965-7171 fax 06-6167-2622
HP sou-sou.com

NO.66 CONTENTS

想創奏



Prife 御座白浜旅行
藤原荘にて花火を楽しむ

01. 巻頭言

2026年度がスタートして3か月、今とこれからを考える…山川真司

02. 特集

ご家族の思いに寄り添う。…福本良成さん

03. 法人の活動

SHIGINO FES.2026…山川真司、折登幹太

04. 読み物

ミャンマー人スタッフの声…HTET HTET EAINT LINN
遠い故国へ送る詩 ミャンマー人スタッフ心の叫び
近隣の方へのインタビュー…美濃部絵莉子
これまで、これからのそうそうの杜…市川大貴
利用者の声…千谷良太
事業所紹介漫画『創奏』…北橋惇

05. お知らせ

そうそうの杜メディアリスト
そうそうの杜MAP
ご寄付について
事業所一覧

關宏之氏の連載については
しばらくお休みさせていただきます。



Towards fiscal 2026

2026年度がスタートして３か月、今とこれからを考える

そうそうの杜理事

山川 真司

Three months into the 2026 fiscal year:
Reflecting on the present and the future.

どのような状況であろうとも、法人の理念の元に支援していく

2026年度がスタートして3か月が経過しました。この節目に、私たちの「以前と今、そしてこれから」について、現場の生の実感をもとに考えてみたいと思います。

制度の狭間で、まっとうな支援を貫くということ

現在の法制度において、一部の悪質な事業者に対する国の対策として報酬改定等が順次行われていますが、実際にはそのために、これまでコンプライアンスに基づいて実施してきた事業者に対しての締め付けになっているところが数多く散見されます。その例のひとつとして、すでに生活介護事業所に対しての報酬体系の見直し、そして今回にあたっては就労継続支援B型事業所に対しての報酬体系の見直し。普通に頑張って工賃を上げた事業所が、たまたま今回の「絆グループ」の不正時期と重なったことで、報酬が今年度一段下がるということが実際に起きています。こういった悪質な業者の不正にともなう改正がどんどん行われていくことで、まっとうに支援を行っているところにしわ寄せが行っているとともに、利用されている当事者にとっても不利益が生じていると考えています。

また、80歳を超えている認知症の介護保険利用者に、ケアマネジャーや後見人が結託して就労継続支援B型事業所を利用するように本人とともに行政の窓口で申請しているという情報があり、区役所の方からケアマネに確認したところ、ケアマネも知らない、本人も覚えていないという事実が出てきました。他の区では100歳を超える方の利用希望があり、受給者証が発行されているとのこと。ただ、それは在宅就労であるなど、想像の域を逸脱しています。このような実態がはびこっている状況があります。

福祉分野の法制度自体が、特に「性善説」を基に作られているからこそ、こういった悪質な業者対応に法が追いついていないのでしょう。ただ、私たちはどのような状況であろうとも、法人の理念である「そうそうの杜はすべての人がその人らしく生き生きと暮らせる地域と社会を創っていきます」の元に支援していくことを、常に忘れずにいたいと思います。

現場での気づきと、命を守るための「BCP」

現場で考えていくと、縛られるものが多くなっている気がします。というのも、法人や事業所が職員をただ守れる時代ではなくなってきており、各自が何が良くて何がいけないのかをしっかりと認識して支援に当たらなければいけないことが増えているからです。

一つは医療的な支援です。これは比較的はっきりとしていますが、「今までは法人内で勝手に大丈夫としてきたこと」

が実は医療行為に抵触していたということが見受けられます。それは、自分たちが法的なものなどを十分に把握せずに教えられてきたことや、前任の方がやっていることは間違っていないと思い込んでしまっていることで起きているからこそ、自分自身の中でしっかりと認識し直す必要があります。また、特に法的な中身でなくとも、支援の中で「何かおかしいのではないか」「自分たちが思い込んでいるのではないか」ということを常に意識して取り組んでいかなければいけません。あわせて「ここはおかしかったのではないか？」と、声を上げて言える環境をどう作っていけるかも必須です。

直近では、水害対策として避難レベル4が発動された際、その対応について物議がありました。今年の5月29日から避難警報の発令名称が変わり、「レベル3」なら高齢者や障害がある人たちは避難を開始、「レベル4」では避難所へ避難という形になっています。しかし、実際には行政も含めてそれぞれが試行錯誤というか、様子見している状態であり、今回も明確な動きができていない中での判断となりました。今回はこのまま小康状態になっていくという判断で事業所も開所しましたが、状況によっては閉所や待機の判断が必要になってきます。本来ならレベル4の時点で待機させるべきだとも考えます。ですが、今までやってきた支援の中で、利用者当事者の立場になると、いつもの場所に行けないことでパニックになったりもします。

そうそうの杜では、地域生活サポートを主軸に考えており、事業所は閉所や待機ができても、地域で暮らす方の支援を止めることはできないと考えています。BCP（業務継続計画）を考えていく中で、まずは避難計画をもう一度考え直す必要があります。職員も利用者も、自分の命を守ることを優先した行動をとる。そのためには「大雨・水害なら？」「台風なら？」「地震なら？」と明確に分けて、避難場所やタイミングも利用者それぞれに考えて伝えていかなければいけないと、今回改めて考えることになりました。

変わらぬ私たちの原点と、これからのチーム

この先も時代とともに、やらなければいけないことや、やるべきことは変わっていくと思います。それでも、各スタッフが理念とともに「その人らしい生き生きとした暮らしができるのか」を真剣に考えられる集団でありたいと願っています。そのために、今必要なルール作りやチームを作っていきたいと再度考えています。

そんな中、いまヘルパー事業所が対応しきれていない現状で、ある新規のケースがありました。夜の入浴介助が必須な方で、どうしても男性スタッフかつ看護師による排泄介助も必須、その後の支援のため夜も遅めの時間帯になるケースです。それを数人のスタッフに相談したところ、二つ返事で「行きますよ」と答えてくれました。どうやって入っていくのがいいのか、スケジュールもお互いにいけるところを出し合って進めてくれているという状態になっています。もちろん、一人の利用者への対応ですので、それで「行ける」と言われればそれまでかもしれませんが、私はここに「そうそうの杜」の原点があると感じており、スタッフには本当に感謝しています。違うケースでももちろん、こうした取り組みができているのですが、これは他ではなかなかないことだと感じています。

自分の働く時間やワークライフバランスが強く叫ばれる時代だからこそ、お互いに尊重し合いながらも、一人の人を支援していくチームを当たり前に作っていける組織でありたい。今、心からそう感じています。



INTERVIEW

シリーズ

ご家族の思いに寄り添う。



福本良成さん 1993年生まれ、重症心身障害者で33歳。小学生の頃から「そうそうの杜」の児童デイや短期入所などを利用し、2014年からはご家族の元を離れて重度訪問介護を利用した地域での生活を開始しました。これまで救急搬送や長期入院を経験し、2025年2月には肺の増悪により人工呼吸器を導入。入院期間中に事業所が地域生活の受け皿を整え、現在は月577時間の重度訪問介護を利用しながら地域での生活を続けています。

今回は、「そうそうの杜」との出会いから20年を超えたお母様にインタビューを行いました。荒川理事長の後押しで息子の自立を決断してから10年余り。親としての率直な思いを伺いました。

そうそうの杜との出会いと卒業後の進路

――真頼：そうそうの杜と初めて関わったのは、僕の記憶では多分2006年の「日中一時支援」とか、短期入所の「光陽支援学校」の・・・あれは中等部ですか？

福本： いや、小学部やったんちゃうかなと思う。緑橋の「伝」からです。蒲生のげんげんの2F「伝」にも行きましたね。

――あらら、もっと前だったんですね。「伝」の移転とともに利用を続けていただいて・・・日中の時間を過ごす時間がちょっとずつ増えるようになって・・・じゃあ次は「お泊まりとかどう？」みたいな話もあったんですかね。

そうですね。なんかあった時のために・・・ショートステイ「添」へ行って泊まりましたね。

PROFILE



庵

福本 良成 さん

そうそうの杜で20年、笑顔で人を惹きつけてやまない

お母さんよく頑張ってるって言って頂けて涙が出そうになりました。

――あのころ、たまたま「女性スタッフの泊まりやけど、本人（息子さん）は中2やん、どうしよう」って僕と綱嶋さんで悩んで。でお泊まりの人がいないってなって、なんかそんなことを無理やりお母さんにお願いした記憶があります。女性スタッフにオムツ交換してもらって・・・

これはいいんだろうか？って思いながら、私が了承したと思います（笑）。綱島さんといえば、先日、はやぶさに来られた時、お母さんよく頑張ってるって言っていただいて涙が出そうになりました。

――そんなこんなで高校を卒業して、いわゆる大人になったということで、生活介護を利用するようになった。

私、光陽支援学校のPTAで進路委員長をやってたんで。役得でいろんなところへ行かせてもらって・・・実は、もうそれがしたくて・・・やります、何でもしますって言ってました。ただ、卒業が近づくにつれその進路を決めるにあたって、学校側が「そんなすぐに決められへんで」とか言われたから、荒川さんに直談判で泣きついて・・・「いいよ」って言ってくれて、それでそうそうの杜にお世話になりました。

‖ 幼少期の診断と「あさしお園」での訓練の日々

――そうなんですね。いろんなことを経験して・・・、古いスタッフで、中学生・高校生ぐらいの時の本人の様子は知ってるんですけども、生まれた頃のこととか、それからちょっとずつ大きくなっていく、その辺のことって聞かせていただいてもいいですか？

まず、3ヶ月健診ぐらいから引っかかりだして。それで、えっと、今はないけど、小児保健センターへ行けって言われて。まあ、「脳性麻痺」という判断をされて。で、ボバース記念病院のリハビリに行きました。で、そのボバース記念病院のPTの先生の紹介で「あさしお園」の母子通園に・・・今まで奈良でしか運転したことのなかったのに・・・中央大通りを運転して通いました。

――おかげで、行動範囲（車の運転）が広がった訳ですね。

まさか大阪で（笑）。それで、学校行くまでそこで母子通園でいろんな訓練をしました。ボバース記念病院も組んでやってもらってたし。

――訓練ってどんなことするんですか？

物を乗せたりとか、動かすみたいな、そういう感じかな。OT（作業療法）も、作業ができるように・・・指を動かしたりとかなんか、作業っていうかね、なんか遊べるようにっていうのをやったり。で、どっちかと言ったら、PT（理学療法）はなんか、三輪車の座る場みたいなところに乗って、装具をつけて動けるように。動く訓練ではないですけども、「歩行は無理やろう」っていう感じやったんで、そういう訓練はしましたね。

――訓練の時って、本人はニコニコしながら楽しそうに？

どうでしょうね。まあ、いろんな人がいる中にいてるから、まだニコニコしてたように思いますけどね。あさしお園の時なんかやったら、一番可愛かったです。今はもう、また別の意味で可愛いですけど。

‖ 支援学校進学と、車椅子の不適合による側弯の進行

――なるほどね。えっと、小学校は最初から光陽支援学校でした？ 地域の小学校を考えるとかは？

まあ、地域の学校へ行くっていう選択はほぼなくて。でも「遊びにおいで」っていうことは言ってくれはったんで、運動会を見に行ったりとか、そんなのはありましたね。でも正直、まだこの頃って（障害を）受け入れられてないからね。当然、エレベーターとかもないしね。障害のある人が地域の学校に行くかって言ったら、そんなことはほぼなかったです。だから、関わりを持てるかもしれない地域の学校に行くか？迷ったけれど、安全面を考えたりして支援学校に行くっていう決定をしました。多分、刺激としては（地域の学校へ）行った方があったんやと思うんですよ・・・受け身だけじゃないしね。でも支援学校行ったら、ほぼ受け身の生活になるっていう感じ。それでも、規定路線で光陽支援学校へ。

――小学部は、マンツーマンに近い感じだったんですか。

そうですね、ほぼそんな感じです。

――あ、すごいな。

まあね、これは結構、おじいちゃん（先生）とかがいてはって。まあ、やっぱり重心（重症心身障害）やから、側弯もありながら・・・歩くのも、ババババッとかけて行ったりする子もいるから、おじいちゃんが一緒に追いかけてはきました、おじいちゃん先生が。

――あれ、その頃は、歩いてはいない？

歩いてないです。歩いたことないです、車椅子です。ここと一緒で好きな先生ができて。おじいちゃん先生が大好きで、その先生が関わってくれると大喜びで・・・

――あ、そうなんですね。

身体的なことで、その一番良くなかったのは、高等部に入った時に・・・はい、もう本当にそれも私の責任なんですけど、車椅子がなかなかもう（合わなくなって）、「ちょっと早めに作っておきましょう」ということで作った車椅子があって。その車椅子が合ってなかったんですね。合わせたはずなんだけれども、側弯がちょっと高等部に入ってからひどくなって。たまたま、ボバース記念病院で受け持ってくれてはった先生が、光陽支援学

校に出入りもあったみたいで来られて、「こんなことしてたらあかん」って言って、見てすぐに調整やってくれはったんですけども、かなりその時点では側弯が進んでましたね。横に肉を詰めて、形を合わせていくっていう感じが多かったんやけどやっぱり合ってなかったんですね。私も（学校へ）しょっちゅう行ってたんですけど、ちゃんと気づいてやれずに。途中から「こうしてあげてください、こうしてください」とは言ってはいたんですけどね。まあ高等部くらいになったら、マンツーマンではなかったんでね。

――あ、なるほど。

まあまあ、そこも一つの、こうだんだんだんだんね、傾いていった（側弯が進んだ）原因ではあると思います。

‖ 股関節の手術、人を惹きつける本人の魅力

――その頃は、お口からご飯も食べてましたよね。

食べてましたね。学校行ってる間、高等部卒業までは食べてましたね。学校出て2年ぐらいして、20歳ぐらいから胃ろうになり、その何年後かに気切（気管切開）になり・・・好きな食べ物は納豆ご飯でした。うなぎも大好きでした。当時の校長先生が、よく声をかけてくれはって。私が学校行ったら「今日は元気やったで」とか。校長先生は全部（生徒のことを）知ってはんねんなっていうぐらい。あの、学校の居心地は良かったですけどね。でも、高校入ってからかな、ちょっとそんなに本人の状態は良くなくなったし・・・

――なるほど。まあ、だんだん大きくなるにつれて、体も変わっていって、医療的なこともまあ増えたりもしながら。

その前に、小学校1年生の時に、南大阪療育園に・・・はいはい、あの股関節の手術をしてますね。1年半ぐらい入ってたのかな。手術だけじゃなくて、その後のリハビリをかねて、1年半。

――長いですよね・・・本人は寂しかったんじゃないですか。

でも、あの週末には連れて帰ってたんですよ。それはあったんですけど、まあそれがあったおかげで、私、ホームヘルパーの資格を取れました、取りに行けました。

――ほうほう・・・すごい。

それにしても・・・「今まで、何人の人に関わってもらってんのやら」っていう感じで。数え切れないです・・・

――やっぱりその時、その時のライフステージで印象に残る人とか、「あ、この人」みたいな人はいますか？

あ、でもえっとね、その小学校1年生から入所した時の看護師さんが、今フェニックスで師長をしてはったりとか。当時のことを知ってるリハビリの先生がまだおられたりとか。今は4階にショートで行くんですけど、そこの受付をしてくれてる人が、小学校の時に（リハビリに）入院してた時に関わってくれてはった人やったりね。手術してくれはった先生もまたいてはりますし・・・もうそんなんで言うたら、もう何人、何百人関わってもらってるかわからない。

――物理的にそういう人を、ちゃんと呼び寄せてくるわけですよね。

ねえ、あの人の周りになんか・・・。「ニタッ」て笑ったら、何でも許せる、許してもらえるっていう。

――あ、それはあると思いますよ。魅力というか、徳というか。その「ニタッて笑う」のが、まあ彼らしさというか。

そうですね。多分ね、私らにはわからんあの人の中で、「あ、この人好き」と思ったらもう好きなんでしょうね。まあずっと、おじさんが好きでしたけどね。

‖ 笑顔と「頭ゴンゴン」、本人なりの意思表示

――ところで、「あ、今日はなんか緊張してるな、なんかあかんねんな」とか、「今日はリラックスしてるな、いい調子やんな」とか、そんなのお母さん見たらわかります？

そうですね、「何怒ってんの？」っていう顔をしてる時ありますけどね。まあなんか「嫌いな、嫌なんやろな」っていうのはありますけど、それも確実なあれはわからなかったんですけど、勝手に私の解釈ですけどね・・・「今日は気に入らんの？」とか冗談言いながら。頭ゴンゴンするやつとか・・・あれはもう絶対やりましたね。

――昔からなんか「あ、今日はいい感じ」みたいなのを確信するような動作とか、そんなのあったりします？

まあ、どうでしょう。やっぱり笑顔かな、もうあれが一番。調子が良くなっていったら笑顔を振りまいてくれますし。最近・・・多分、知恵がついて、あれ（無呼吸になること）はナースコールやと間違ってると思います。

――このまえ、お父さんが「お前、息止めてんやろ」「息止めて呼んだやろう」とか言ってましたけど（笑）。

あれがナースコールやと思ってると思います。あれをやったら来てくれる。この前泊りしてくれた女性スタッフも言ってた。ピーピー鳴って見に行ったけど「夜中にニコニコしてくれるから、しばらく横に座ってました」って。「ニコッ」と笑ってくれるから・・・他の人の時にそんなこと言うたらまた味を占めるね、と思いながら（笑）。

――いやー、まあね、彼も分かってますからね。

そうなんですよ。私らにもわからん、なんかこう、感じてるもんがあるんやと思います。

‖ 下宿屋「笑」への入居、家族に生まれた心のゆとり

※下宿屋「笑」とは、当法人の公益事業である「地域生活サポート事業」で管理する生活住居（下宿屋）であり、GH制度とは異なる地域生活を支援する独自の仕組みである。

――20歳超えてから、ショートも入れながら自宅から離れる時間も作ったわけですが、「グループホームに入居させたい」「家から出したい」みたいな考えは生まれてきたんですか。

正直に言ったら、多分しんどかったんやと思うんですよね、私自身が・・・もう夜も寝ないから、ずっと抱っこして過ごしてるとか、なんかそういうことが増えだして。やっぱりどこかでしんどかったんかな。自分のこの、ちょっとこう肩の荷を下ろせる時間っていうのはありがたい。ショートで泊まるから、送迎して帰る時は、本当にちょっと気持ちが軽くなりましたもんね、正直・・・それはもう本当に、「あぁ・・・」っていう、なんかね、息が抜けるというか、緊張がほぐれるというか。

――そんなの、僕は初めて聞きましたけど。荒川さんとかにもそんなこと喋ったりしました？

そんなんあんまり言わないですよね。ねえ、喧嘩ばっかりしてる（笑）。

――在宅の時の夜って、お母さんはしんどかったですかね・・・

夜ね、本人がしんどがって・・・その時にその緊張が入っていってこう泣くから・・・いろんな人の話とか聞いて。「筋弛緩（きんしかん）」・・・名前は悪いですけど、テルネリン、今も飲んでるんですけど、それを飲むと緊張がほぐれるから本人にはいいよっていうことを調べたりとかして、医療センターの先生に「この薬を出してほしい」って言ったら、「効くか？」って言われたけど、「いや、とにかく出してほしい。マックスまで出して。とにかく試してみたい」って言って。そっからちょっとそういう（泣くの）がなくなって、本当にだいぶ楽になりました。泣いてた夜も少しずつ落ち着いてね。だからその緊張が気持ち悪かったのか、しんどかったのか、なんかそんなんやったのかなと思って、本人もそれで楽になったんや、と私は思ってるんです。

――家から出て違うところで泊まって、泊まってる時の様子が、まあ僕らからもちゃんと伝えているつもりではありますけれども。当然、心配やったり、気が楽になってとかっていうのもあったとは思いおもいますが、なんやろう、帰ってきた時、「あ、なんかあったんちゃうか」とか、なんかそんなんとかは別にな・・・。

そんなんは私、あんまり思わなかったですね、はい。

――帰ってきて、そうですね・・・なんか嫌な顔してたりとかは？

ない、なかったですね。そんなのは、そんな印象には残ってないです、そういうのは。

――そっか、じゃあ一般的に大人になる過程で「家を出て、一人暮らしをして、ちょっとずつ成長しながらいろんな経験をして、いろんな人と出会う」じゃないですか。彼にもなんかそういうことを感じたことってあったりします？

それはない、ない。いや、「それはない」って言ったらおかしいですけど、どこかでやっぱり「自分が見なあかん」っていう思いは引きずってるんでしょうね、きっと。「また帰ってきたね」っていう感じです。

――そうですか・・・

それがもう「帰ってきたん？」って言うんじゃないけど、まあ「あ、帰ってきた」。だから土日に帰ってきてるのが一番本人も元気やから、そうして帰ってきてっていうのがあるから、私らも、私自身も気持ち的には安定してたんかな。あ、帰ってくるのが当たり前やから。その時はそうやったと思いますね。

――そっか、うん。

まあ、本人もそうやったんかなとは思うけど。「土日にも帰る」っていうのも思ってたんかなとは思うけど。いや、もうなんか平日心配でっていうことじゃなくて、いや、多分ね、こう、あの・・・「笑」に入居した頃から私、すごい気持ちが楽になって、いろんなことをしましたもんね。

――あ、遊んでましたよね。

遊んでましたよ（笑）。

――いいな（笑）。まあまあ、今までいろんなことができなかったっていうのはもちろんあったでしょうけど、そういうことができるってこと自体が、もう安心しきってるというか。

どうしてんやろうとか、そういうのは全っ然・・・「全然」とは言いませんけど、「一緒にいてるからな」っていう思いだけで。

――それって、僕らもまあ任されてるという感じももちろんありますし。

それは本当に。だからショートぐらい行ってる頃ぐらいから違います、私、フラフラ（笑）。あ、でもまあそうですよね。だから「土日はあかんけど、平日は目いっぱい遊ぶ」っていう感じで。彼の本当の「家」として「笑」という住居を準備して。まあ、でも土日は帰るけど、そういうリズムでずっとやってきてたんがなんか・・・。そんなのもあって、2024年12月の（体調を崩す）までは、そんなに割とみんな、いろんな方も職員の方も、みんな本人の変化なんかやったら気づいてくれてはったし。それと「ここまでしてもらったらあかんの本当にわかれへんけど、お願い」っていう部分もやっぱりあったし。だから多分、家と同じ感覚で本人は「笑」で過ごせてたんやと思ってます。

――その、あれだけ泊まりのスタッフとかを限定して絞って、もう固定のメンバーで同じような感じで体制をキープまでできてたっていうのは、良かったですね。

大きかったですね。

――そうですよね。

誰も「辞めないで・・・辞めないで・・・」と思ってました。でもそのうちまた、もっと（スタッフが）増えてきてくれたりしたから安心でしたね。だから、「笑」自体もこれが平日の家で、実家が土日の家に思ってたんちゃうかなと。

――なるほどね。そういう感じですね。時々、土日も「笑」に泊まるようになった・・・。

あ、ありましたね。なんか用事があったりとか。

――あ、まあまあ、お出かけとか。

そうですね、なんかいろんなことあった時はお願いしましたね。で、（予定を）組んだりとかしてたとはおもいますが。だからそういうのも気持ちがすごい楽になってるから、ついついね。あの、本人はどう思ってたのかもわからへんけど、土日も暮らしてもらってっていう感じで。それに対して不安が全然なかったですね。まあ逆にね、スタッフの人らは大変やったと思うんですけども。

――いいですよ、それは。「ニタッ」て笑ってくれるから、あれがねいいんですよ。そういうお話を他の親御さんと話したりする機会はあったんですか？

何人かはそういう話はしてたけど・・・朝潮園時代からのお友達で「うちも入れてくれへんからな」っていう人はいてはりますね。で、他にはそういう話してたら「なんで？」とか言って。私らも「自分らで立ち上げなあかん、この子らの行くところはない」って・・・「いいな」って言わはりますね。大体、医療的ケアの人間を見てくれる施設ってないじゃないですか、今。病院とかになっちゃうじゃないですか、それも療養型病棟か老人ホーム。

――そうですよね。今でこそ「医療的ケア児」、医ケアの子どもたちに対するそういう選択はどんどん広げていかないかん、じゃないとお母さんたちの負担が増えるっていうのは言われてるけど、息子さんの時代にはそんなの全然なかった。

なかったです。そういえば病院のショートもしたことありますね。

――あ、あの何て言うんやろ、レスパイト入院みたいな。

そうですね、契約したことがあって、1回入院、入所したことはあったんですけど。なんか特別みたいな、奥の方の部屋に、1人で面倒見てくれはるみたいで。あまりにも（みんなと）距離が離れてたから、余計に心配になってもう行かへんかったんですけどね。なんかすごい奥の方で、まあ関わってくれるのは看護師さんとかが関わってくれてるけど、多分、四六時中見てるわけでもない、モニターつけてるわけでもなかったし。「あ、ちょっと違うな」と思って。

‖ ナーシングホームでの葛藤、わが家のようなそうそうの杜へ

――そっか。え、でもその若い頃は、呼吸がどうのこうのとかはなかった？

なかったですけどね。ただ、あの、その緊張してこう頭ゴンゴンとか、見えへんとか、そんなのはありましたね。いろんな出来事・・・本人の体調とか変化があって、「ナーシングホーム」入居を決断した。そこしかなかったんです、それは。うち（の自宅）が無理だったからっていうことですよね。そうなんですよね、もうこれは「そこしかないな」っていうことで行って。今は「ナーシングホーム」があちこちに増えてて・・・。

――増えてますね。

はい、あの緩和ケアとか看取りとかそういうのやりはるから、看護師さんが何人もいてはって・・・何人もではないけど、いてはるっていうのがあって。多分、老人介護としてはきっとちゃんとしたところやったと思うんですけど。今、経験してきたそうそうの杜で受けてきた介護対応とはもうかけ離れてた。だから、これまで、いいところで過ごさせてもらってるのが当たり前・・・当たり前とは思ってなかったんですけど、それが「介護」やと思ってたんが、なんか入ってみたら、時間にならないと本人の部屋には誰も来ない・・・もう、胸元によだれの池ができてても・・・誰も見に見に来てくれない。だから毎日通って、たまに散歩に連れ出して。毎日散歩で、雨が降ってなかったら鶴見緑地まで歩いてましたもん、連れて。雨の中をまた引っ張るみたいな感じで見てはったけど。でもう、自費やったけど、「1日30分の訓練できますよ」って言われて、そういう・・・まあ、誰か人が来て関わって時間を作れたらね、何でも関わってくれはったらいいかなと思って、お願いしましたけどね。まあ、仕方なくあのナーシングホームに入居したけれども、そこから「びんの郷」へ帰らせてもらったんですよ。もう皆さんも力強い声を上げてくれはった。

――これ、そうそうの杜の体制が整備できましたっていうのがあったからですか。

5月14日、忘れもしません。「調子悪いからこれ病院搬送せなあかんみたい」に、その辺、朝言われたみたいやけど。「とにかくそうそうの杜へ連れて帰ってください。ナーシングホームから病院行ったら、出先がナーシングホームやから、また退院する時はナーシングホームへ帰らなあかんです」ってね。「あれ、出たところへ帰らなあかん、いやもうそれだけは絶対・・・何が何でもその日（そうそうの杜へ）」でも、私その場にいなかったんですけどね、どっか行ってたんでしたっけ？

――そうなんですか（笑）。

でも、あの子が入居・・・入所できるようなところ・・・そんなところ、あまりないんですね・・・多分ね、あの施設として全然そのランクが下とか、そんなのはなかったと思うんです。ただ、今まで受けてきたケアとは全く違てたから、私が勝手にとんでもないと思ったけど、よく考えたら、お年寄りの人が入りはるには

普通のそういう施設やと思うんですよね。

そうそうの杜は家にいてるのと一緒、私ら以上に関わってくれる

――「そうそうの杜」がやってきたことっていうのは、お母さんから見るとどういうことなんですか、具体的には。他と違う、ここが似てるとか・・・。

一緒・・・家にいてるのと一緒・・・だから私ら以上に関わってくれるところやと思ってたし。

――あ、本人への関わり方。

そうですね、もう、もう他にこんなところはないと思ってたし、全然衝撃でしたね、あのナーシングホームのケアのあれには。まあ、医療センターで入院した時も、そんなんではないですもんね。

――そうですね。

医療センターに入院してる時は、やっぱり看護師さんも大部屋に行ってる分、いろんな人が顔を出してくれたり、声をかけてくれはったりとか。それし、それこそ小児科で入院してた人が異動になって、いま入院してるから・・・ってここへ寄って「また来た！」とか、誰か声をかけに来てくれたり。居心地は良かったですけどね。でも言うても病院ですから、本人にとっては退屈やったと思います。でも（家に）いろんな人がいっぱい来るじゃないですか。いや、でもね、もう本当に、でもこれが「それは本人のためじゃなくて、多分自分のため」だと思って。お父ちゃんなんかでもそうじゃないですか。

――そうですね。

もうなんか「家で電話が鳴ってドキッとするんやったら、そこに、横にいる方がいいんじゃないか」ぐらい思ってるんちゃうかなと思うぐらいで。あ、お父ちゃんの場合も、今までそんなに関わってこれなかったから、今、一生懸命やってるんちゃうかなと思いますけどね。

――お父さん、全然関わってこなかったんですか？

いや、関われなかった・・・家にいなかったじゃないですか（笑）。あの何十年も単身赴任してたから、帰ってきた時はもうかわいがってたけど、いない間っていうのがほとんど私・・・入院したって言ったって、お父ちゃんがいてへん間に入院してどうのこうのっていうのも全部私一人でやってきたし。まあ報告はしてたけど。やっぱりその、今まで関われなかった分を取り戻してるんちゃうかなと思いますけどね。「（昔に）してあげられへんかったことを今までやってんのかな」と。

――いや、そうでしょうね。

温かく見守っていきたいと・・・いやでも、あの、いつまでもこんなことが続けられるとも思ってないから、「もうできる時にやらないとあかん」じゃないですか。だからもう、お任せするところはお任せしていこうかなと私も今思ってますよ。ただ、その苦悩がみんなにこう、迷惑をかけるんやったらあれやけど、ついつい自分がやってしまうじゃないですか。それはやっぱり良くないなと思って、お任せしてるんやったら全面的に。で、正直に言うと、遊びに来た時に寂しく一人でいてるのをパッと見てしまうだけで、こう・・・。

――ああ、それはですね、気にしてしまう？

気にしてしまう部分があるんで。あの人の場合、こう、何でもそうですけど、なんかどこかで人の声がしてるだけで落ち着ける。まあ、落ち着ける部分っていうのが、「あそこに誰かいてんな？」ぐらいの気配で安心してるみたいなものがあるから、その声が聞こえてるのがいいかなって思って。「びんの郷」なんかやったら、本当によかったじゃないですか。ご飯作ってくれてはるそばで顔を覗いて声をかけてくれはる、誰かが来る、足をさすりに来てくれるとかね。

――まあ、そうですね、うん。

宮田さん（※同居していた宮田さん。残念ながら5月に病気のために逝去されました。）が「姉ちゃん来たで！」とかって言うてくれるのも、あの人にとっては多分楽しかったと思います。はい、まあ、あんなね、平面でこう、みんなが介護できてるっていうのがなかなかないですもんね。うん、ご飯は、食事作りに来てくれてる人にまでなんか声をかけてもらってニコニコして。「今日はニコニコしてましたよ」とか、色々言うてくれはるから。それだけみんなにお世話になってんねんなと思って。

――うん。まあ、たいそうなことをしているのではなく、みんな眺めて話しかけてる・・・

それがいいんやと思います、もちろんもちろん。それすらもなかったのは、残念なところではあったんでしょうね、昔はね。その、あの・・・もう愚痴を言うとあれやけど、ナーシングホームなんか、向こうの方で声がいっぱい聞こえてくるけど、部屋には来てくれへんかったから。もうキャッキャやってはるけど。レクとかね、食堂とかでやってたりは気しなかったですね。それは行くこともなかった。1回だけ、誰かが演奏に来たから「見に行きました」っていうのはあったけど・・・

‖ 医療的ケアの強化と、これからの生活に望むこと

――2025年の秋から冬にかけて、本人の体調が全然良くない状態が続いて、もう「通所もやめましょう」ということになって、それ聞いた時は・・・。

今、本人に会いに来てるのも、それも要因の1つの1つではありますね。行けなくなってんやったら、誰か来ないと寂しいかなと思って、勝手に解釈して来てるようなもんですけどね。

――まあ、もちろん行かせたい、通所してほしいっていうのは・・・。

そうですね、とにかく「人と関わらせてあげたい」っていうのはありますね。だからって、親が来たら・・・喜んでるから・・・やってるのか、私には分かりませんけどね。いろんな方法をね、考えながらできたらいいなとはもちろん思うんです。だから、私が言ってることがこう、完璧になって、それが進んでいかへんのやったらあかんから、やっぱりもうお任せして、たまに顔を見に来るぐらいにしといた方がいいかな、とか最近はだいぶ思ってはいる・・・思っています、はい。うん。ただ、あの11月以降、ずっとほぼほぼ部屋から出れない生活が続いているっていう状態は、本人にとってはやっぱりストレスが溜まるっていうか・・・あの「昼夜逆転」ってい理由でもあるんかなって・・・そう1日のリズムが（昔は）ありました。「朝から今日は雨、庵に行ってきました、夕方帰ってきました」っていうのがこう、リズムですよね。今はリズムが全然ないから、それで夜中にバッチリ（目が）見られてるのかなっていうのもあるんですけどね。いや、だからって私らが来たから寝るかって、そんなこともないけどね。

――本人が一番ストレスを感じているようなところって、お母さんから見ると「なんかこれなんちゃうかな」みたいなのはあります？

ストレス、ないんかな。いや、あの、頭ゴンゴンしだす時は、なんか便が出る前とかにゴンゴンしだしたりとか、まあそれを解消するのに、まあ定期的に浣腸をしてくれてはって。お腹がぽっこりになる時期があったので、この前、今、先生が見てくれはった時は「ガスが溜まってるのかな」と言ってはったけど、その張り具合でしんどいのかなっていうのもあったんですけども。あ、ストレスとしたらそれかな。あと、無理やりメラを口に突っ込まれ・・・私が突っ込むけど（笑）、ボトボトになるとかってやってるけど。

――頭ゴンゴンは、排便のサインですか。

絶対そうとは限らないですけども、その後見てみると、ちょっとだけ出てたとかいうことも。決まってるかもしれない。「お腹痛いのかな」とか思って、あの定期的に浣腸、お風呂の前にしてくれはるとか、なんかそういう対策をしてくれたのは、あの・・・「藍訪問看護ステーション」がいろいろ考えてくれてはって、山口先生に指示をもらって浣腸をする。

――そうですね。医療面に関しては、「藍訪問看護ステーション」のおかげで、いろいろ強化ができてると思いますが・・・その辺はやっぱりお母さんも安心感がありますか？

はい、看護師が来てくれるっていうのが一番の安心ですからね。あの・・・アラームが鳴る時っていうのは、このカニューレの周りの痰がパリパリになってるんですね、あの重たいやつが。それを看護師さんに「これ取ってください」って言えるんかなって思って。それをしても医療的にあかんのかなとか色々思いながら・・・ただやっぱり、お父ちゃんなんかやったら、「もっと簡易的に呼吸器をうまいこと乗せ替えられて、散歩に行けたらいいのにな」っていう風なことは言うてますね。でも、藍訪問看護ステーションさんにしたら、「そんな危ないことはさせられません」と思ってくれてはるんやろうと思うけど。いや、本当にね、正直よくしてもらったら、また次が見たくなる。「こんな安定した、ここも大事にしてもらってるのに、あ、今度あんなんが、ああいう世界があるから、そこも本人にとっては・・・」とか思ってしまうことは確かです、はい。

――まあ、今までできてたことにちょっとでも戻せるように、みたいなイメージでしょうか？

ナーシングホームに住んでた時のこと考えたら「贅沢言うな」って言われそうやけど、ついついこの、良くなってきたり今度また上を見たくなるっていうのがね。うん、まあでも呼吸器をつけてるっていうのは、もう本当に綱渡りでね、いろんなリスクがあることはもう重々わかってるし。肺がもう機能してないっていうのもあるけど、今までなんでもなぁなぁで私はやってきてたから・・・

――こんなんさせたいな、とかはあります？

いや、こんなんさせたいっていうか、いや、もう、もう本当に基本「人との関わり」だけですね、はい。人と関わることが嬉しい。だからもう1対1とかより、なんかちょっと離れたところで、いつでもいいからワイワイって言うてる声が聞こえてるだけでも、あの、声が聞こえたら嬉しいんかなとか、勝手に思いますけどね。うん、その合間に声をかけてもらうだけでも、きっとあの人は喜んでるんちゃうかなって。若いミャンマーの子たちが声をかけてくれても、「ニタッ」て笑ってますから。

――ヘルパーとか、私たちに「こうしてほしい」とか、もうストレートでいいと思うんですけど・・・ありますか？

今は本当に・・・今までもそういうのはほとんどなかったですね。もう今、十分してもらっているという・・・その、あの、お世辞でも何でもなくて、本当に今までそうそうの杜の人らがしてくれてはったことっていうのは、本当に私はありがたいと思ってるし。まあ、こうやってお話もしながらね。

――そうですね、ちょっとずつできること、できないことを、妥協点をちょっと高めていけるような、そんなんができたらいいんでしょうけど。

そう、なんか「これ、こんなんやけど大丈夫？」とかいうのは、直接会ったら話ができてると思うんで。「今日、こんな様子です・・・こんなうんち出てたけどどうですか？」とか、なんかそういう話も、まあ毎日来てるからあれですけど。そういう話も別にあの、躊躇なく私もできてるので、勝手にやけど。なんか関係がちゃんと保ててるっていう感覚ではあります、はい。それは本当にありますね。まあ、1日1回はベッドから降りられたらいいこと・・・暑がりやしね、大体暑がりやから。でもそれしようと思ったら、看護師さんにすごい・・・もう聞いたら「5人がかりや」とかって・・・

――そうですね、ルート持つ人、チェックする人、カニューレ固定する人、抱える人・・・。

あとお風呂。もう1回、入れたらいいなって。お年頃ちょっ

と過ぎてますけど、代謝がいいですしね。今週1（回）やから。お風呂と、散歩まで行かなくても1日1回は部屋が出るとか、日光に当たるとか、人がいるところに行くとか。週に何回か「みんなご飯食べてるところに一緒に行っとったらええやん」みたいに言ってくれたから。だから本人の状態も悪くなっていってるっていうのもあるけど

――いいと思います。みんなと食事、それからお風呂、散歩。

‖ やまゆり園事件から10年――家族の葛藤と、彼が広げてくれた世界

――最後に、植松聖が津久井やまゆり園で事件を起こしてから、この7月で10年が経過します。この事件についてお話を伺いたい。

いやもう、それ聞いてびっくりしますね、10年経つんですよね。でもね、私、その犯人より、そのお母さんというか、ご家族さんがどうか、亡くなりはった子どもさんのお母さんの話・記事なんか読んだら割とこう「名前は公表したくない」っていう人とか、正直「ホッとした」とかいう人もいて・・・それは、親がそういう風に言わはったとしても、周りの他人が「そんなこと言うたらあかんと思います」っていうのは言うたらあかん。お母さんがこれまでずっと思ってたことやから、あやこや言う必要はないし。まあ確かにあの、「生産性がない」と言われたらそうやと思うけど、息子は相当の税金に使って、今生活させてもらってますよ。それに対してそういう風にね、犯人がそういう風に思ったのか・・・そうか、私は、私の思うには、あの人が「自分より下の人間」を、なんかこう「こんな奴いらん」って思いはったんかなと思って。自分が自分より下の人間を見下すような形で殺したり傷つけたんかなって言うて、私は勝手に思ったんですよ。

――一応、接見したり手紙のやり取りをしたいろんな人の話とか裁判の記録とかによると、最初は「障害のある人と一緒に仕事してるの楽しい」って言ってて。でもあそこで仕事をしてて、あそこのスタッフのやり方とかに「え？」って疑問に思ったりもした記録もあったんですが、最終的には選んで殺してるから。植松聖が言う「心失者」っていうのがどういう人なのか。私にはちょっと言葉が見当たらない。植松聖自身はこう表現してますね・・・意思表示もなくて、何も喋らないけれども、なんか食事介助でご飯らしきものを流し込まれている人たちって。

私、割と正直あの犯人にあんまり興味がなくて、「家族がどういう風に思ったのかな」っていうの、そっちに興味があって。初めの事件を起こした時に、「名前を出さないでください」って言うはる人の・・・

――ずっともうイニシャルというか記号で表記されたままでしたからね。

いや、その気持ちもわからんではないよなとかぁ・・・やっぱり私も「うちの子は障害者です」って大々的に、大きな顔して歩けたのって相当年月が経ってからやと思いますよ、うん。

――それは「肩身が狭い」とか、そんな感じですか。

肩身の狭い思いはしてないですけども、いろんな宗教の人が来てくれて「どうですか」みたいなようなところもあるし。ただ、うちの娘が、自分の友達なんかを（家に）連れてくる時に、「これ、これうちの弟」って普通に言うたんですよ。あ、この子は生まれた時から一緒やから、そういうあれ（偏見）は持ってないんやなと思って。はい、コンプレックスじゃないけど、なんて言うんやろう、何もないんでしょうね。だから隠すなんていう感じはなくて、友達連れてきた時に「これ弟」とか言いながらやってたから「これ、これ。これって何や」と怒りながらも。「え、私の方が恥ずかしいやん」って思って（（笑）。それはだいぶ、私の気もちょっと楽になってたかな、その頃に。「あ、そうなんや」って。だからいろんなことできますよね。学校の通園バスが来る時に、トラックが時間待ちでバス停を占拠しはったから、トラックの運転手のドア叩いて「この時間だけでいいから停めんといて・・・どっか行って・・・そしたら、次から次またトラックが来るから・・・」「現場どこかな」と思ったら近くやって、そこの現場のところまで行って「こっからこの時間はトラック停めやんといてくれ」って言いに行ったりとか（（笑）。そんなん平気でできるようになりましたね。でもそういうなんか、変なお母さん、お母さんパワーというか、お母さん盛りというか。どっかで隠したい気持ちもきっとあったんやろうなと思い・・・思ってて。娘がそうやったから、「ああ、私の方があかんやん」とか思いましたね。

――娘さんのことばに救われるというか・・・

そうですね、救われたんでしょうね、きっとね。いや、救われるのと反省と。

――そうですね。「当たり前の人と人として」っていうところなんでしょうね。

そうですね。こう本当に、やってみていろんな人と知り合えたし、勉強させてもらいましたね。多分、普通、健常児やったら出会えてない。それが良かったか悪かったかいうのはまた別として、そういう人と知り合うことはできましたね。知り合うし、知ってもらう人がたくさんいてくれはる。

――いろんな人を呼びこむ・・・引き寄せる・・・彼の魅力ですよね。今日は長時間ありがとうございました。



2026

SHIGINO FES. REPORT



SHIGINO FES.2026について

by

今年度も無事に開催できたことをうれしく思うとともに皆様に感謝いたします。

特に出店にご協力いただいた方については、どれだけの集客があるのかわからない中、参加していただき大変盛り上げていただいた事で、フリーマーケットと食べ物市はすごく良かったと参加者の声がありました。

また、城東幼稚園の園庭で行った、しぎのぼっチャ大会についても、たくさんの参加者があり、賑わいを見せた形で行い盛り上がりました。順調に皆さんのご協力もあり終えられたこともよかったです。

残念だったのは参加者を確保できず舞台での発表ができなかったことです。その分をなんとか、抽選会やビンゴ大会にて過ごせるようにしましたが、来年度には、日程や案内を早く行い、それぞれの団体に参加してもらえるようにしていきたいと考えています。

子供たちが楽しそうに何度も商店街を往復している姿や表情を見れたこと、幼稚園の園庭では、年齢関係なく勝負に向かって集中している姿が見れた事など普段とは違う一面を皆さん出されており、本当に楽しかったです。

本当に皆さんありがとうございました。

このSHIGINO FESが城東校下地域でのイベントとして当たり前に毎年行っていけるようにたくさんの人に参加してもらい、地域の子供たちが楽しみにして参加していけるようにもしていきたいです。

この城東校下地域を盛り上げていくためにも、皆さんからの意見をいただきたいと考えています。できる事、出来ない事、色々な人に協力してもらわないといけない事もありますが、これからも、このSHIGINOFESが続けていけるように、よろしくお願いします。

5.6 WED

10:00-16:00

南鴫野商店街 & 鴫野小学校

FOOD MARKET

- 鴫野の各種店舗・団体・個人様による食べ物市

FLEA MARKET

- 鴫野の各種店舗・団体・個人様によるフリマ

SPORTS & EVENT

- 老若男女、障害の有無問わず楽しめるぼっちゃ大会
- 豪華景品が当たるビンゴ大会







SHIGINO FES.ぼっちゃ大会について

折登 幹太

2026年5月6日（水）にしぎのぼっチャ大会を開催しました。この日は、晴れていて過ごしやすい天候でした。参加チームは、計24チームという非常に多くの皆様に参加してもらいました。個人的にチーム名が面白い所もあるので毎年見るのが楽しみだったりもしています。

個人的な話になりますが、当日の役回りとして、僕は全体進行役になっていました。正直な話、なぜ司会なんだという気持ちがあり、自信はなかったのですか役割が決まった以上は頑張らないといけないと切り替えたことを思い出します。実際に大勢の参加者の前に立ってみると、その緊張感は想像以上でした。ただプログラムに沿って進めるだけでなく、会場の盛り上がりや、全体の空気感を肌で感じながら言葉を選ぶ難しさや臨機応変に対応する難しさを学ぶ機会となりました。

全体進行がうまくできたかどうかはわかりませんが、ヘルプで協力していただいたスタッフ皆さまのサポートによりスムーズな進行が出来ました。また、試合が始まると、各コートから自然と大きな歓声や応援の声や拍手が起こり、参加者自らがボッチャ大会を大きく盛り上げてくださったことで、ぼっちゃ大会を楽しく行うことができました。

今回のSHIGINO FES.を通じて、地域とのつながりのすばらしさを改めて実感しました。今回のように子供から大人、立場関係なく地域を巻き込んでイベントを行うのが、そうそうの杜の強みだと思います。次回も開催すると思いますのでその時は、多くのご参加をお待ちしています。ありがとうございました。

ミャンマースタッフの声

支援の現場で感じたこと

HTET HTET EAINT LINN

「大丈夫、あなたがいい」と言ってくださった

私は2022年4月にミャンマーから日本へ来ました。来日後は日本語学校で1年間勉強し、その後介護福祉士専門学校で2年間学びました。在学中から「そうそうの杜」でアルバイトとして働き始め、卒業後は介護福祉士の資格を取って、正職となり現在も勤務しています。

日本へ来たばかりの頃は、日本語や仕事のやり方がわからず不安な毎日でした。障害福祉の仕事も初めてだったため、利用者との接し方や支援方法など覚えることが沢山ありました。

アルバイトの頃は先輩スタッフに教えていただきながら補助的な仕事をしていましたが、正職になってからは担当する仕事や責任が増え自分で考えながら行動する場面も多くなりました。最初は大変でしたが少しづつ経験を積み、自信を持って仕事ができるようになりました。

今でも忘れられない出来事があります。日本へ来て間もないアルバイトの頃、入浴でリフトを使って利用者を介助していた時、リフトが途中で止まってしまい利用者が驚いて泣いてしまったことがありました。私自身も驚き「もうこの仕事は続けられないかもしれない。」と思うほど不安になりました。

その後、利用者に「別のスタッフが対応したほうが安心ですか？」とお聞きしましたが「大丈夫、あなたがいい。」と言っていただきました。

またスタッフの皆さんも「大丈夫、一緒に頑張ろう！」と優しく励ましてくれました。
利用者の信頼とスタッフの皆さんの支えがあったからこそ、諦めずに仕事を続けることができました。あの時に支えてくださった皆さんには、今でもとても感謝しています。

この仕事では利用者と一緒にハイキングや外出、旅行へ行く機会があります。施設の中では支援が必要な利用者として接していますが、一緒に外に出かけると楽しんだりする姿を見ることができます。その姿を見て一人の人として寄り添うことの大切さを学びました。

私は旅行や外出が好きなので利用者と一緒に色々な場所へ行けることもこの仕事の楽しさの一つです。利用者の笑顔を見るたびに私自身も元気をもらい、毎日楽しく働いています。職場では上司や先輩スタッフ、一緒に働く皆さんがいつも優しく接してくださいます。仕事でわからないことがあれば何度でも丁寧に教えてくださり、日本での生活に困った時も相談に乗ってくださいました。家族のように支えてくださる仲間がいるからこそ安心して働くことができています。

これからも感謝の気持ちを忘れず、利用者一人ひとりに寄り添い、信頼されるスタッフになれるよう努力していきたいと思います。

ミャンマースタッフ心の叫び

遠い故国へ送る詩

国を想うということで、外国人（ミャンマー）スタッフMOE KHAR(仮名)が望郷の念に駆られながら詩をまとめて書いてくれました。
現在、そうそうの杜では非常勤も含めて20名を超える外国人が働いてくれています。皆一生懸命働いてくれていますがそれぞれの国の事情が違うために、一律に外国人としか括れませんので心が痛みます。
もちろんそれぞれの国の事情が解りませんので一概には言えないのですが、明らかに不当な政権が国を支配しているミャンマーにおいては国に帰る事さえ許されない人たちが望郷の念に駆られながらも日々働いてくれています。
オフの時は、一生懸命SNSを駆使して母国の家族や友人と連絡を取り合っています。そこで彼らがねがっているととは国が平和になる事。
今回は、そのもどかしい想いを含めて平和を願いながら創作してくれました。

（荒川）

by MOE KHAR

ラカインの新しい未来へ

人の寿命は60年、父の時代、祖父の時代
曽祖父の時代、そして私たちの時代
空は暗く雲り 空には雲の影が
暗い…暗い…霞んで…
立ち上がれ、オー…ラカインよ、立ち上がれ
暗くなった後に明るく、満ちた後に引く
白、そして黒、苦い、そして甘い
湿った、そして乾いた
それらは巡り来る
自然の理（ことわり）
蝋燭一本で闇の扉を叩く勇気ある
18歳の子よ…
今、ラカインは目覚める
輝き、豊かな大地に
光が満ちる
勝利の旗が、たなびく…
閉じていた目を開け
細めていた目を見開け
ほら…そこに、赤い光…赤い光が輝く…
光になれ、立ち上がれ。
学びとは、思考が成熟すること
学びとは、闇の中の光
学びとは、真実を求めること
学びとは、自我を捨て、法の懐に抱かれること
学びとは……
学びとは……
賢者は見るべきものを見る
愚か者は見たいものを見る
ユダヤなきイスラエル
キューバの民なきカストロとチェ・ゲバラ
残された体のための
頭には支えるべきものがない
だから…
ここにいる18歳のお前
眠りたい心を、少しだけ手放すのだ。



by MOE KHAR

暦が泣いている国

タザイと言う花の香りの中で血が滲むこの国で
間違った暦で生まれてきた星たちも色褪せ
日々沈み続けるのを嘲笑っている
悪魔が溢れるほど
手足の不自由な若者たち
身を寄せる家族の巣もなく
この悪魔のせいで
生まれたばかりから
呼べる父も母もないまま大きくなった子ら
炎に焼かれた街や村の灰の山
独裁者たちの手で摘み取られた
未来の新しい世代の若者たち
「人」という名詞だけがあって
人の命が安いこの国では
年越しカレンダーの中の年も
"Happy New Year"の叫び声は久しく聞こえない

INTERVIEW

NO. 7

いつもお世話になっております／近隣の方へのインタビュー



鴫野で鍼灸治療院を開業して8年。鍼灸師とケアマネジャーの資格を持ち、地域医療と介護の両面から住民を支える小倉さん。30代の若い世代として地域に根差した活動を続ける小倉さんに、鴫野の魅力や課題、今後の展望について美濃部がインタビューしてきました。

一般社団法人マモルグループ
代表 小倉 裕司さん

仕事しやすい環境をつくってくださったのが鴫野なんです。

美濃部　なぜ鴫野で開業されたのですか？

小倉さん　前職の治療院に7年間勤務した後、独立して開業しました。鴫野を選んだ理由は、この地域にとてもお世話になったからです。地域の施設や多くの方々とのつながりの中で、右も左も分からない頃から支えていただき、仕事がしやすい環境をつくって下さったのが鴫野なんです。繋がりが強いのかなと思います。

――若い世代の立場から見た鴫野の魅力は？

まず交通の便が良いことですね。繁華街に近い一方で、落ち着いた雰囲気があり、騒がしすぎないですね。また、意外とスポーツジムが多く、運動に活発なイメージがあります。若い世代も少しずつ増えてきていますが、やはり高齢者も多く暮らしていますね。高齢者も元気に活動されているのが特徴ですね。

――開業されて8年、この地域の変化を感じることはありますか？

大阪公立大学ができるなど、地域の発展を感じる出来事がありました。大学ができるということは、それだけ地域に将来性があるということだと思います。また、土地価格も上がってきています。需要が高まり、これからさらに発展していく可能性を持った地域ではないでしょうか。



マモル鍼灸治療院

大阪市城東区鴫野西5丁目15−15

Instagram

そうそうの杜とつながれたことは大きかったと思っています。

――ケアマネジャーとして、孤立や困りごとを抱える方についてどのような課題を感じていますか？

特に多いのは独居高齢者です。誰に相談したらよいのか分からず、一人で困りごとを抱えているケースが少なくありません。地域とのつながりやコミュニティに参加していない方も多く、そうした独居高齢の方々をどのように地域とつないでいくかが課題だと感じています。そのためには、地域での催しや交流の機会を増やしていくことですね。

――ケアマネジャーとして活動する中で、「地域のつながり」が支援につながったと感じるエピソードはありますか？

例えば、経済的な理由で引っ越し業者を利用することが難しい方に対して、そうそうの杜のB型事業所へ相談し、引っ越しや片付けの支援につなげることができました。ケアマネジャーの立場としても、お金の問題によって必要な支援が受けられないことがあります。そのような時に相談できる窓口として、そうそうの杜とつながれたことは大きかったと思っています。特に近年は引っ越し費用や不用品処分の費用も高くなっています。だからこそ、そうそうの杜のような地域の事業所の取り組みをもっと多くの方に知ってもらいたいと思っています。私だけが知っているのはもったいないですね。地域のためになる取り組みだと思います。



――鴫野のまちを地域全体で支え合うために必要なことは？

介護や障害福祉の分野は、どうしても縦割りなんだと思います。それぞれの業界の中だけで完結しがちです。本当に地域で支え合うためには、住民の皆さんを巻き込んでいく必要があると思います。障害や高齢者福祉について、「身体が不自由な人」「介護が必要な人」というイメージだけを持っている方も少なくありません。障害や高齢者福祉には、そのようなイメージだけではない魅力や可能性があることを発信していく必要があります。そのためにもイベントを開催する際も、地域住民の方の参加をメインとして、そこに高齢者や障害者を巻き込んでいけたら良いものが生まれるのではと思います。

――今後、取り組みたいことはありますか？

私は鍼灸師とケアマネジャーの両方の資格を持って活動しています。こうした形で活動している人は地域ではあまり多くありません。その強みを生かして、体操教室や運動指導をしながら介護保険のことに触れる機会を設けていきたいです。やはり、介護が必要な状態になる前の予防はとても重要です。地域全体に開かれたイベントなどを、そうそうの杜さんとも一緒に企画していきたいですね。

そうそうの杜さんと次世代を育てる取り組みをしていきたい。

――小倉さんの思いについてお聞かせください。

鴫野で仕事を始めてから長くなりました。これからもこの地域で仕事を続けていくつもりですし、鴫野を離れることは考えていません。だからこそ、次は後継者を育てることですね。自分自身もまだ若い世代ですが、次の世代を育てていかなければならないと思っています。そうそうの杜さんも同じ思いだと思うので一緒に次世代を育てる取り組みをしていきたいなと思っています。いつまでも、もらってばかりではいけないと思っています。今は、その恩返しをしていく立場になってきたと感じています。将来的には、鴫野で新しく開業したい人や、お店を始めたい人を応援できる存在になりたいと思っています。

――ありがとうございました。

特集



これまでのそうそうの杜
これからのそうそうの杜

ベテランスタッフ、新人スタッフに、
それぞれの目から見たそうそうの杜を
語っていただき、多角的な視点から
そうそうの杜の歴史を創る新企画です。



勤続2年(+6年)

市川大貴

profile

所属　げんげん

好きなもの	お酒
行ってみたい場所	ジブリパーク
人生で一度はやってみたい事	宝くじ高額当選

ひとこと　「慢性胃炎」との健康診断結果ですが、どうしたら治りますか



これからのそうそうの杜



げんげん　市川大貴

障害のある人が商店街を歩いている風景が自然なものになるように

私は大学を卒業して、大学時代の仕出し弁当のバイト先で1年半正社員として働いていたが、大学卒業時に社会福祉士の国家試験に合格していたこともあり、「福祉の仕事に就こう」と思い立ち就職活動をした。

福祉の仕事の中でも障害福祉の分野を選んだのは、大学時代にボランティアサークルで障害児とその親と障害児の兄弟が集まる団体に関わっていたので、関わっていた人たちの為に将来何かしたいと思ったことが理由だ。

その頃には特に障害者の地域生活がどんなものなのかはわかっていなかったが、面接を受けた法人は障害者の地域生活を重視している法人ばかりだった。その中で、そうそうの杜の面接を受け、林さん作成の激ムズな入職試験を好成績で突破し、荒川理事長と当時の副理事長に即日採用を頂いたので入職できた。

そして23歳～30歳まで7年就労分野で配属され、一度退職し6年ほどそうそうの杜を離れ、「出戻りは3回までオッケー」という荒川理事長の言葉もあり、出戻りさせてもらい現在のげんげん配属という流れである。辞めていなければとっくに10年表彰をもらえていたのに、すごく惜しいことをしたと感じている。(笑)

やっと本題に入るが、これからのそうそうの杜についてはやはり地域生活を重視した取り組みはずっと続けていかなければならないと感じている。利用者の高齢化や重度化、医療的ケアが必要になった人たちも増えてきている。そんな人たちがすぐに施設に入所するのではなく、慣れ親しんだ場所や人と共に暮らしていけるよう環境を整えていかなければならない。そして、障害のある人が商店街を歩いている風景が自然なものになるように、障害のある人もない人も暮らしている町を作り上げていきたい。また、当事者たちは満足しているのか、地域に住んでいる人たちはどうなのか、地域生活の質も考えていかなければならない。

「げんげん」に関しても利用者が徐々に減ってきているので、今いる利用者の安全に配慮し、ケガなく事故なく楽しい「げんげん」を提供し、新規の利用者の受け入れも積極的に行っていきたい。また、強度行動障害など関わりが難しい方も増えてきているので、スタッフには各種研修を積極的に受けてもらいたい。

スタッフに関して、私自身、他の障害福祉事業所を経験してきて、そうそうの杜の良い所を再認識できたので、他の事業所を見学なり、働くなりして視野を広げていけば、参考にできる部分もあるだろうし、自身のスキルアップにもなると思うので、自己研鑽のためにもフットワーク軽く動いてもらいたい。

福利厚生の部分だが、住む場所は自由だが、高い交通費を払って通勤してもらっている人たちもいる一方、城東区を愛し、鴫野を愛し地域の為に活動しているスタッフもたくさんいる。そこで、新しい手当として「城東区住んでます手当て」を提案します。朝早くや夜遅く、休日などにヘルプに呼ばれる、それぞれの持ち場での仕事が終わった後、ヘルパーの仕事を依頼されるなど、地域生活の支援を頑張っているスタッフもいるのでご検討ください。

これからもそうそうの杜が発展していきますように。



利用者の声

No.5

26年5月8日、F&LCサポートに就職することができました。



千谷 良太
Prife

Q1.千谷さんのプロフィールを教えてください。

1987年11月13日 生まれ さそり座のAB型です。
年齢は38歳になりました。
好きなことは音楽を聴くことやソフトボール部に入っているので楽しくソフトボールをしています。
運動会でいつも出るリレーが大好きです。去年は運動会のMVPになりメダルをもらいめっちゃ嬉しかったです。

Q2.そうそうの杜に出会ったきっかけを教えてください

18年前（2008年）に荒川理事長とY氏が家まで来てくれて利用し始めました。
理事長が来た時にやさしそうな人が来てくれて、ここで利用してみたいなと思ったのがきっかけです。

Q3.そうそうの杜ではどんなことをしてきましたか？千谷さんの歴史を教えてください。

18年前は居宅介護でとことこっとのスタッフとの関りが中心で、14年前に初めてとことこっとの人と創奏の見学に行って、その時にMさんというスタッフがいて、話をして週1～2回からはじめようということになり、創奏に通所し始めました。
創奏には8年通い、そこからはつむぎ館にステップアップをしました。その時に荒川理事長と大竹さんからつむぎ館で働こうねと言われて、相談してつむぎ館に通所することになりました。
そこからつむぎ館で1年が経ったころ、板見さんと今福事業所に見学に行き、就職も目指していたので今福事業所を利用することになりました。
そこから創奏やつむぎ館に戻ってしまうこともありましたが、就職への強い気持ちがあったので再度、Prife（今福事業所）を利用することになりました。
Prifeに来はじめたころは幻聴が聞こえることが多く、とてもじゃないが働ける状態ではなかったですが、訪問看護を利用し始めたことや中世古さん、手塚さんと相談をすることで、少しずつ気持ちが楽になってきて、幻聴が減り、現在はF&LCサポートに就職することができました。

Q4.そうそうの杜で一番思い出として残っていることは何ですか？

一番思い出に残っていることは、就職できたことがやはり一番です。
これまで色々なことがあったし、僕の人生の中で自分に「よくやった」と褒めてあげたいと思う出来事でした。
お金を稼ぐという目標を持てて実際に実行できているということが大きいです。
面接前に実習に行ったことも良い思い出です。
実習での経験が今の自分の糧になっています。

Q5.千谷さんにとってそうそうの杜とはどんな場所ですか？

みんなやさしいし褒めてくれるし、自分にとって生きがいになっている場所です。
落ち着く場所でもあり、気持ちが楽になる場所でもあります。
18年前の荒川理事長との出会いのおかげで今の自分があります。
本当に感謝しています。いつもありがとうございます。

就労継続支援B型 就労移行　Prife

一般就労に向けての意識の向上、企業等での実習も行っています。

そうそうの杜 事業所紹介 創奏（生活介護）



今日は創奏を紹介するよ！

創奏ってどんなところなの？

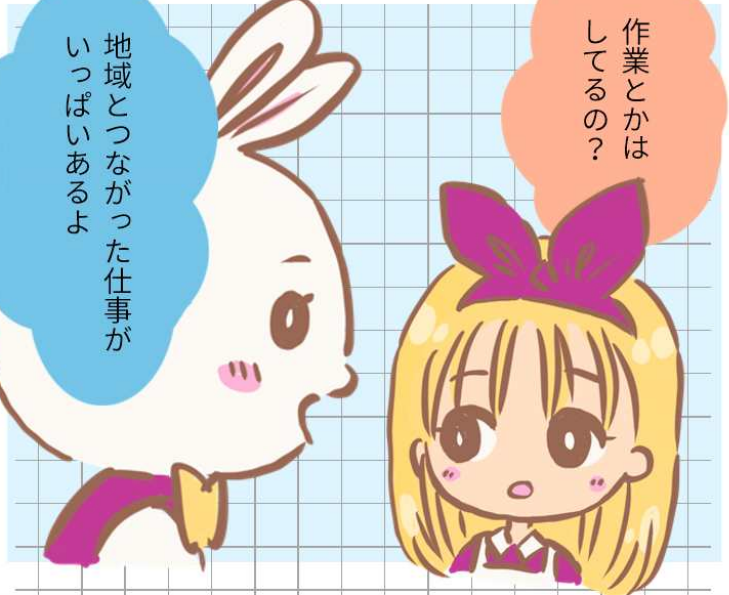
北橋 惇



創奏は、そうそうの杜の他の事業所と同じく、地域の中に開かれた事業所なんだ
南鳴野商店街とくっついて、街の中で生き生きと過ごせるようにしてるよ



事業所の中も、ほぼおうちみたいな感覚
ダンスしたり折り紙したり、休憩したりサッカーを観戦したり…
それぞれが好きなことをして、居心地のいい居場所になっているよ



作業とかはしてるの？

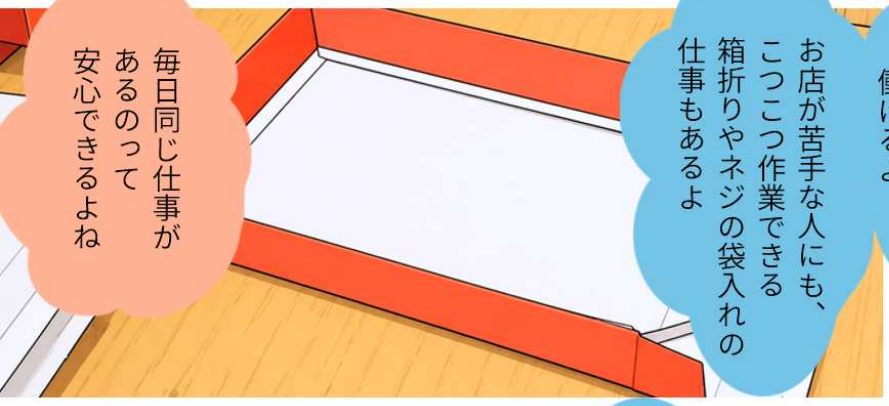
地域とつながった仕事がいっぱいあるよ

なんと創奏は南鳴野商店街にふたつの店舗を持っていて、そこで仕事ができるんだ

えーすごい！どんなお店なの？

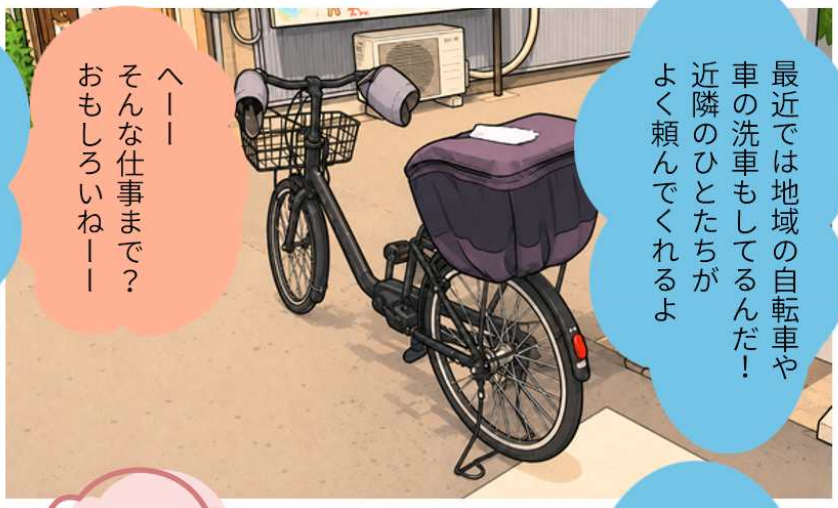














地域の中で
生き生きと暮らしながら、
地域の中で
生き生きと働き続ける…
創奏が
みなさんにとっての
居場所に
なりますように

そうそうの杜 Links

YouTube

1 關宏之『福祉の本質』

柔らかな切り口で福祉の本質に迫る、そうそうの杜相談役關先生の福祉講座

2 多田泰秀のプロ野球速報

野球をこよなく愛する多田康秀が、プロ野球ニュースを熱く語り尽くします

3 Prife SMILE TV

利用者発信！ Prifeにまつわるさまざまな動画を配信するチャンネルです



4 もりのひより

そうそうの杜初のVTuber！商品紹介からイベントレポートやおもしろ企画まで！

Instagram



1 Kawasemi



2 杜のShokudo



3



4 おいもの国のアリス



5 杜のこうさてん



6 そうそうの杜



7 そうそうの杜(X)



8 鴫野活性化プロジェクト



8 Alice Lab.

Online



1 Amazon電子書籍

そうそうの杜出版部から、絵本やエッセイなど珠玉の作品がAmazonKindleで発売中



2 今中さんLINEスタンプ

Prife今中さんのLINEスタンプ好評発売中。「ビンちゃんスタンプ(挨拶)」で検索！



3 Alice Lab. LINEスタンプ

パソコンチームアリスラボ利用者の作品集。「荒川さんスタンプ」が大人気。



4 ジュンク堂キューブックス

堂島アバンザ・ジュンク堂書店に出店中。本棚番号231。不定期で1日店長も開催。

そうそうの杜は

税額控除対象法人です

ご寄付で控除を受けることができます

メリットの大きい方をご選択ください

税額控除 小口の寄付に減税効果

所得金額にかかわらず小口の寄付にも減税効果
（寄付金額 − 2,000円） × 40%（定率） ⇒ 減税額

例…5万円のご寄付
（50,000円 − 2,000円） × 40% ＝ 19,200円
（但し、所得税額の25%が限度）

所得控除 大口寄付に減税効果

所得金額と寄付金額が多いほど大きな減税効果
（寄付金額 − 2,000円） × 所得税率（5〜45%） ⇒ 減税額

例…5万円のご寄付（課税所得金額が500万円の場合）
（50,000円 − 2,000円） × 20% ＝ 9,600円（但し、寄付金額は年間所得金額の40%が限度）

2026/3〜2026/7 ご支援いただいた方（敬称略）/ 機関誌をお送りいたします。

松岡 政美、阪口 昌通、衣川 育良、常山 一歩、三宅 克英、村津 和雄、外川 鉄治、森 貴宏
阪口 昌通、大熊 章夫、国本 光子、金子 公子、進藤 久子、池田 勉、竹林 秀規、壬生 美登里
中島 伸治、竹中 康豊

当法人の理念や事業、目的に賛同される方、
事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。

寄付の手順

銀行振込

下記までお振込ください。
ゆうちょ銀行
口座番号
00940−5−185986
振込先（加入名）
社会福祉法人　そうそうの杜

物品寄付のお願い

利用者さんの作業にするため、ご不要なものがございましたらご寄付をお願いいたします。

本、雑貨など大歓迎です。よろしくお願いいたします。



ご支援、ご寄付いただき心より感謝申し上げます。

そうそうの杜 MAP


城東区役所
3
とことこっと
Kawasemi
城東警察署
POLICE
地下鉄蒲生四丁目駅
N
聖賢小学校
10
いま福の家
今福小学校
地下鉄鴫野駅
1番出口
城陽中学校
8
伝 / 庵
JR鴫野駅
P
コノミヤ
セブンイレブン
6
つむぎ館
望
鴫野小学校
13
Lian
王将
1
本部
杜のShokudo
心
5
座座
2
就ポツ
城東小学校
17
だがしや
15
ざっかや
11
添
14
アリス
16
いばしょ
今里筋
南しぎの商店街
18
アリスラボ
9
げんげん
7
創奏
12
こうさてん
城東消防署
4
Prife
ジャパン
地下鉄緑橋駅

1 法人本部

本部としてすべての支援の発信点となっています。利用者さんたちが笑顔で立ち寄る場所です。

1 杜のShokudo

就労継続支援Ｂ型

発酵食ビュッフェとして調理では一人一品以上作っていただくことを目標とし、商店街のサテライト等、多角的な事業を展開しています。

1 心

自立訓練

日常生活のスキルのみならず、支援学校から事業所につなげていくための支援を行っています。

2 地域生活支援センターあ・うん

相談支援事業

仕事に関すること、生活に関すること、障害福祉サービスに関すること等々、各種相談を受け付けています。

2 大阪市障がい者就業・生活支援センター(北部地域センター)

あなたと企業を結びます。就職に関する総合的な支援を行っています。
※大阪市の機関になります。

3 とことこっと

居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護

生活の安心を支えています。

3 発酵薬膳&cafe kawasemi

就労継続支援A型

発達障害がある人の就労の場として、１日7時間の労働・最低賃金・社会保険等を保証、経済的な自立と働き甲斐のある職場を目指しています。

4 Prife

就労継続支援Ｂ型/移行/定着

就労にまつわる様々な支援を行っており、B型としての事業とともに、移行定着として一般就労を支援しております。

5 座座

就労継続支援Ｂ型

自閉症の方が多く利用されている作業所です。それぞれの特性や能力に応じた生産活動や社会活動に取り組んでいます。

6 つむぎ館

就労継続支援Ｂ型

にぎやかで家庭的な雰囲気の中にも、仕事場としての意識を持ち作業に取り組んでいます。生活をより豊かにしていくための活動の場として機能しています。

6 望(のぞむ)

就労選択支援

就労先や働き方について、あなたの希望や適正に合ったよりよい選択ができるよう支援するサービスです。

7 創奏

生活介護

幅広い年齢層の人が利用されています。その人の利用目的に合わせて相談し合いながら一緒に決めていきます。

8 庵

生活介護

リフト浴が出来る機械浴と一般浴と大小２つ入浴できる風呂があり、個々人にあわせた様々な入浴に対応できます。

8 伝

児童発達支援・放課後等デイサービス

感情を育てる療育を中心として、子どもが自分で考え、気付いて行動が出来るような関係性の向上を目指しています。

9 げんげん

生活介護

利用者のみなさんが、積極的に地域と関わる事や、創作活動、散歩、ゲームなどの遊びを通して「今日一日楽しかった」と感じてもらえるよう取り組んでいます。

10 いま福の家

生活介護・共生型通所介護・
共生型介護予防型通所サービス

民家であるため自宅のような安心感が得られます。障害者支援のノウハウに基づき、いきいきと過ごせる家庭的な支援と美味しい食事を提供できることが特徴です。

11 添

短期入所

個室。ショートステイは、家族の入院、グループホームや一人暮らしなどの地域生活への移行のための練習など、各々の目標に沿って支援しています。

12 杜のこうさてん

子育て支援事業

就学前の子どもを持つお母さんたちの居場所として、乳幼児から幼児までの憩いの場所であり、育児中の交流拠点となっています。

13 Lianの杜

手作りのパン、スイーツを販売しています。製菓、店頭販売に従事していただいています。

14 おいもの国のアリス

おいもを使った美味しいスイーツの製造販売しているかわいいお店です。

15 杜のざっかやさん

さまざまな雑貨をリーズナブルな価格で取り扱っています。

16 杜のいばしょ

地域交流

地域の方が交流する場所として、さまざまな試みを行いながら、困りごとの相談含め、地域の多面的なサポートを行っています。

17 だがしやさん

商店街のだがしやさんという安心して過ごせる環境の中で、店頭業務をしていただいています。

18 アリスラボ

不思議なお店のパソコンチーム
・デザインなどパソコン全般
・オリジナルアパレル展開
・Amazonアウトレット等の物販
・動画編集、配信
・電子書籍制作
・クリエイティブ全般

- 地域生活サポート事業

ひとりひとりがその人に必要な支援を受けながら暮らしています。そこから、就職先や事業所に通っている人がいます。

社会福祉法人そうそうの杜



法人本部
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



地域生活支援センターあ・うん
相談支援事業
城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6969-8123
Fax/06-6167-2622



北部地域センター（大阪市障がい者就業・生活支援センター）
城東区鴫野東3-2-28
Tel/06-6955-9921
Fax/06-6167-2622



とことこっと
居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護
城東区中央1-6-29 2F
Tel/06-6167-7530
Fax/06-6955-8826



Prife
就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援
城東区東中浜2-2-19
Tel/06-6923-8959



座座
就労継続支援B型
城東区鴫野東3-2-12
Tel/06-4258-6013



つむぎ館
就労継続支援B型
城東区鴫野西5-13-6
Tel/06-6180-6820



Kawasemi
就労継続支援A型
城東区中央1-6-29
Tel/06-6935-1111
Fax/06-6935-1911



杜のShokudo
就労継続支援Ｂ型
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6955-8080
Fax/06-6167-2622



創奏
生活介護
城東区鴫野東3-3-1
Tel/06-6923-8929



庵
生活介護
城東区鴫野東2-26-18
びんの郷 1F
Tel/06-6958-4745



伝
児童発達支援・放課後等デイサービス
城東区鴫野東2-26-18 びんの郷 2F
Tel/06-6958-4746



げんげん
生活介護
城東区鴫野東3-18-5
Tel/06-6180-9670



いま福の家
生活介護・共生型通所介護・共生型介護予防型通所サービス
城東区今福南4-15-33
Tel/06-6180-7399



心
自立訓練
城東区鴫野東3-2-26
Tel/06-6965-7171
Fax/06-6167-2622



添
短期入所
城東区鴫野東3-2-5
Tel/06-6167-5395



杜のこうさてん
大阪市つどいの広場事業
城東区鴫野東3-3-3
Tel・Fax/06-6961-5505



望（のぞむ）
就労選択支援事業
城東区鴫野西5-13-6
Tel・Fax/06-6180-6820

鴫野商店街内サテライト



Lianの杜



おいもの国のアリス



杜のざっかやさん



杜のいばしょ



だがしやさん



アリスラボ



荒川さんLINEスタンプ

KSK（想創奏）一九八四年八月二十日第三種郵便承認 毎月（五・十・十五・二十・二十五）日発行 通巻3894号 2026年8月25日発行 定価100円
発行人／関西定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二―二 東興ビル四階